トイレ建設の対象者向けワークショップ

アシストアフリカ!

アフリカは今、世界でも最大規模の国内避難民と難民を抱える地域です。「アフリカ最大の難民危機」と指摘されるほどの事態にもかかわらず、その実情が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られています。日本から約1万km離れた大陸で、何が起きているのか。タウトク編集部では、南スーダン、ケニア、ウガンダで活動するNGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、アフリカが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円をアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!

世界各地で支援活動を続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました!
左のQRコードからアクセスしてみて!
http://peace-winds.org/

タウトクでは毎号、アフリカの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク8月号の販売部数
4,362部×3円=13,086円
を支援金としてPWJを通じアフリカの国内避難民・難民支援事業に送りました。

peace winds JAPAN

月刊タウン情報トクシマ
タウトク
medicomm inc
株式会社メディコム
月刊タウン情報トクシマ編集部

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

難民自身が参加するトイレ建設 ～ケニア・カロベエイ居住地区～

「実はトイレの穴を掘り終わってないの。でも、頑張って掘るから支援対象から外さないでほしい。」衛生啓発活動を目的としたワークショップの中盤、一人のおばあちゃんが私に話しかけてきました。

ピースウィンズ・ジャパン(以下、PWJ)は2018年6月からカロベエイ難民居住地区内で世帯用トイレの建設と衛生啓発活動を行っています。ここでは現在約8,000世帯が生活するなか世帯用トイレの建設が追いつかず、トイレを使用できる人たちの割合はわずか30%前後と言われています。また、野外排せつが大きな問題にもなっています。

トイレは“ぽっとん便所”が主流で、その穴掘りは自主性を促すため難民自身で掘ることになっています。穴の深さは5m必要で、相当な力仕事ですが穴を掘り終わらない限りトイレ自体を受け取る対象とはなりません。(柱や屋根等はNGOが建設することになっています。)

トイレの足場(この下には5m以上掘られた穴がある)

冒頭で紹介した女性はブルンジからの難民で年齢は70歳近く、「頑張って掘るから」と言ってくれたものの、彼女の家を訪ねてみると、小学生の孫が一生懸命穴を掘り進めても深さはまだ2mほどでした。家族構成をみても力仕事ができそうな青年はいません。PWJのスタッフはこの状況を受け、彼女が住んでいる地域の難民リーダーへ協力を仰ぎ、同時に彼女の親戚や友人で穴の掘削を手伝える人たちがいないか、彼女の家に再度足を運び、話を聞くことにしました。その結果、彼女の遠い親戚や地域の人たちからサポートを受けられることとなり、彼らの協力もあって期限内に穴の掘削が完了しました。完成した穴を見て私たちも彼女と共に喜び、スタッフが「来週、トイレを建てるからね!」と言うと彼女はとても安心した顔をして「ありがとう」と言ってくれました。

建設後のトイレ

現在、多くの世帯は地域内の共同トイレを使用していますが、運よく共同トイレが家の近くにあったとしても、穴の中が汚物で満杯になっていたり壊れていたりする場合が多く、使用を諦める人も多いと聞きます。その結果、野外排せつの多さにつながっています。

PWJは3か月間でまず50軒の世帯用トイレの建設を行いました。建設の前には支援対象となる50世帯すべて訪問し、穴の直径・深さを確認し、穴の掘削が完了していない世帯は、家族や親戚、または地域で助けられる人がいないかなどの状況確認を行っています。

家庭訪問して状況確認するPWJスタッフ(左から2人目)

支援が必要な人が取り残されないよう、そして彼ら一人一人に寄り添える支援が行えるよう、PWJは今日もカロベエイで活動しています。

ケニア・カクマ/カロベエイ駐在員　本田佳織

＊本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。